

1. 研究目的

近年では歴史が好きな人の為に、様々な歴史散策マップが作られている。しかしそれは誰も知っているような歴史の人物ばかりだと感じた。

そこで、今回は「前原巧山」という幕末の技術者を取り上げ、違う視点から見た散策マップの制作することによって、理工系の人にも使える社会人教育向けの新しいマップの提案を目的とする。

2. 調査と分析

歴史散策マップとは、歴史的な場所や街道、歴史上の人物に関連する名所を巡りながら、歴史の息吹を感じるというものである。主に、歴史が好きな人・歴史上の人物が好きな人が使用し、お城や住居跡などの形の残っているところや、形は残っていないがここにありましたと書いている看板のあるところ、関連する御飯処などを巡る。いわゆる、歴史趣味の人向けに限定されがちである。今まである歴史散策マップというのは、教科書に載っているような、誰もが名前は聞いたことのある人物ばかりであった。やはりこのような人物たちはとても人気があり、観光地にもたくさんの方が訪れている。しかし、それだけでは歴史が好きな人に限られてしまい、普通に観光をする人はあまり使わない傾向にあります。ここで問題なのは使用するユーザーの偏りです。

3. コンセプトの立案

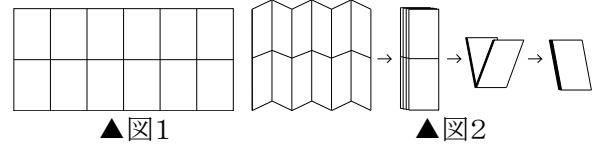
「みんなで楽しむ散策マップ」

歴史が好きな人はもちろん、歴史にあまり興味が無い人や、もともと自分が技術者だった人など、いろんな人に幅広く楽しんでもらい、そこから歴史や日本の技術を作ってきた人たちに興味をもってもらえるようなマップの作成。

4. デザイン展開

マップを持ち歩くのはとても嵩張る。しかし小さすぎると道がわかりづらかったり、文字が小さすぎたりなどの現象が起こる。さらに女性の方は小さいバックの方もおり、男性の方はバックを持たないという方もいる。そこで図1のような大きさにしました。大きすぎず、小さすぎず、小さいバックやズボンのポケットなどにも入れることができる。図2のように折り曲げることで全部広げなくても見やすく、簡単にその場所や人物の情報、地図を見ることができるよう

なっている。



▲図1
(297mm×630mm)

5. 完成図



6. 結論

問題点とした、使用するユーザーの偏りについてですが、宇和島観光協会の方の協力もあり、一般の人にマップを見てもらえる機会があり意見をいただいた結果、「歴史に興味ない方でも知識を見ながら周れるため、いいと思う。」、「1日で歴史についてすこしわかった気持ちになれたのがよかった。」などの言葉をいただきました。あまり歴史を知らない人にも楽しんでもらえるものにできたと考える。しかし「歩く距離がかなりあるところが大変だった。」という意見もあり、お年寄りの方や、体の不自由な方などには少し巡るところが多かったのだということがわかりました。幅広い人に楽しんでもらうという点に関しては再検討する必要があります。

文献

- [1] 山館順, “幕末期の蒸気船技術者「前原巧山」と蘭学との出会い：巧山と宇和島蘭学風土” 技術史教育学会誌 / 日本技術史教育学会誌編集委員会, 14(2)巻, pp 9-13, 2013年3月